

令和5年度（令和4年度対象）

事務事業評価報告書

下松市教育委員会

令和5年10月

令和5年度（令和4年度対象）事務事業評価報告書

目 次

はじめに	… 1
評価の実施方法	… 1
（１）評価の対象	
（２）評価の観点	
（３）評価の主体及び方法	
（４）評価の見方	
評価の結果	… 3
学識経験者の知見の活用について	… 5
各事務事業の評価結果	… 12

No.	事業名	担当課	No.	事業名	担当課
1	学校施設の整備充実	教育総務課	19	青少年の健全育成活動	生涯学習振興課
2	教育機器等の充実	教育総務課	20	青少年育成の啓発・情報提供	生涯学習振興課
3	学校用地の確保	教育総務課	21	青少年相談業務	生涯学習振興課
4	学校図書館の充実	教育総務課	22	公民館施設管理整備事業	生涯学習振興課
5	海外語学研修生派遣事業	教育総務課	23	生涯学習活動の推進・支援事業	生涯学習振興課
6	小学校ALT派遣	学校教育課	24	生涯学習による人づくり・地域づくり事業	生涯学習振興課
7	中学校ALT派遣	学校教育課	25	二十歳のつどい	生涯学習振興課
8	教員補助員の配置	学校教育課	26	下松市民憲章推進によるまちづくり	生涯学習振興課
9	心豊かな子どもを育てる推進事業	学校教育課	27	下松市連合婦人会活動支援	生涯学習振興課
10	下松市教育支援センター	学校教育課	28	芸術文化の振興	生涯学習振興課
11	下松市カウンセリングルームや心の教室相談員の活用	学校教育課	29	吹奏楽の活動支援	生涯学習振興課
12	下松市コミュニティ・スクール推進事業	学校教育課	30	文化会館管理運営事業	生涯学習振興課
13	学校ガードボランティアの推進	学校教育課	31	歴史・伝統の保護・活用事業	生涯学習振興課
14	学校における働き方改革の推進	学校教育課	32	人権教育	生涯学習振興課
15	就学援助費交付事業	学校教育課	33	子どもの読書活動の促進	図書館
16	学校給食の充実	学校給食課	34	図書館の充実	図書館
17	放課後子ども教室・家庭教育支援推進事業	生涯学習振興課	35	移動図書館の充実	図書館
18	子ども会活動支援事業	生涯学習振興課			

はじめに

下松市教育委員会では、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」及び「下松市教育委員会事務事業点検及び評価実施要綱」の規定に基づき、令和4年度実施の事務事業について評価を行いましたので、その結果を報告します。

これは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条において、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検評価を行い、その結果を議会に提出するとともに、公表することと規定されており、平成20年度から毎年度行っています。

本報告書は、下松市のホームページに掲載し、広く市民の皆様に周知することにより、市民と行政が一体となって、教育行政を推進する役割を担います。

また、教育行政に高い見識を有する3名の点検評価委員から貴重な御意見をいただいておりますので、これらを生かし、事務事業の更なる充実を図るなど、効果的な教育行政の推進に努めてまいります。

評価の実施方法

（1）評価の対象

令和4年度に実施した教育委員会の事務事業について、「下松市前期基本計画」（令和3年度～令和7年度）に掲げられた政策、施策を基に、評価する事務事業を選定し、担当課ごとに分類しました。

（2）評価の観点

妥当性（事業の目的及び対象等の検証）、有効性（事業の成果の検証）、効率性（事業費及びコストの検証）及び関与性（事業への関与の検証）を評価した上で、総合評価を行い、今後の課題について総括しました。

（3）評価の主体及び方法

担当課が「事務事業評価シート」により、自己評価を実施しました。

（4）評価の見方

事務事業評価シート中、「2 事務事業の評価」の各項目について、以下の要領で記入しています。

①妥当性 ②有効性 ③効率性 ④関与性について、次の基準に照らし評価を行いました。

評価項目	着眼点	評価	
妥当性	◆事業目的、対象等の検証 ・事業目的が市総合計画に合致しているか。 ・市民等のニーズはあるか。 ・時代の変化に適応した内容となっているか。	A	市民等のニーズが高く、目的が市総合計画に合致している事務事業
		B	市民等の一定のニーズがあり、目的が市総合計画に沿った事務事業
		C	市民等のニーズはあるが、時代変化により目的が薄れてきている事務事業
		D	市民等のニーズや社会変化に全く適応していない事務事業
有効性	◆事業の成果の検証 ・意図された成果を挙げているか。 ・成果を向上させる余地はないか。	A	十分な成果を挙げている事務事業
		B	一定の成果を挙げている事務事業
		C	一部に対して成果を挙げている事務事業
		D	成果が挙げられず、継続しても成果の向上が期待できない事務事業
効率性	◆事業費及びコストの検証 ・最小の経費で最大の効果を挙げているか。 ・受益者負担は適正か。 ・対象の範囲は適正か。	A	事業費及び実施手法が適切で、効率性の高い事務事業
		B	事業費及び実施手法が概ね適切な事務事業
		C	事業費及び実施手法は概ね適切だが、一部見直しが必要な事務事業
		D	事業費及び実施手法の大幅な見直しが必要な事務事業
関与性	◆事業への関与の検証 ・事業の実施主体は適切か。 ・特定の個人や団体に利益が偏っていないか。 ・民間サービスと競合していないか。	A	法令等で市が実施主体であることが定められた事務事業
		B	市民サービスのため市が実施主体となるべき事務事業
		C	市が民間サービスを補完している事務事業
		D	民間が実施主体となるべき事務事業

⑤総合評価として、次の区分により、事務事業の今後の方向性を評価しました。

区分	基準
拡 充	施策の成果向上を図るための貢献度が非常に高く、さらに充実した取組が必要と判断される事務事業
継 続	施策の成果向上を図るための貢献度が高く、継続した取組が必要と判断される事務事業
縮 小	施策の成果向上を図るための貢献度が低下しており、事業手法や実施体制等を見直して縮小する必要があると判断される事務事業
完 了	所期の目的や成果を達成し、完了した事務事業
廃止(休止)	継続しても目的の達成や成果の向上が困難であるため、廃止(休止)する事務事業

評価の結果

評価項目の集計結果は次のとおりです。

①妥当性

評価区分		事務事業数	割合 (%)
A	市民等のニーズが高く、目的が市総合計画に合致している事務事業	21	60.0
B	市民等の一定のニーズがあり、目的が市総合計画に沿った事務事業	13	37.2
C	市民等のニーズはあるが、時代変化により目的が薄れてきている事務事業	1	2.8
D	市民等のニーズや社会変化に全く適応していない事務事業	0	0.0
		35	100.0

市民等のニーズの高さは異なるものの、約97%の事務事業について、妥当性はあるとされています。目的が薄れてきている1事務事業は、総合評価を「継続」と判断しているため、今後、適切にニーズを把握し、事業の活性化を図る必要があります。

②有効性

評価区分		事務事業数	割合 (%)
A	十分な成果を挙げている事務事業	12	34.3
B	一定の成果を挙げている事務事業	22	62.9
C	一部に対して成果を挙げている事務事業	0	0.0
D	成果が挙げられず、継続しても成果の向上が期待できない事務事業	0	0.0
—	令和4年度未実施事業	1	2.8
		35	100.0

約97%の事務事業が十分又は一定の成果を挙げていると評価しています。1事務事業について、令和4年度は、事業未実施となっています。

③効率性

評価区分		事務事業数	割合 (%)
A	事業費及び実施手法が適切で、効率性の高い事務事業	12	34.3
B	事業費及び実施手法が概ね適切な事務事業	22	62.9
C	事業費及び実施手法は概ね適切だが、一部見直しが必要な事務事業	0	0.0
D	事業費及び実施手法の大幅な見直しが必要な事務事業	0	0.0
—	令和4年度未実施事業	1	2.8
		35	100.0

約97%の事務事業について、「事業費及び実施手法が適切で、効率性の高い事務事業」又は「事業費及び実施手法が概ね適切な事務事業」と評価しています。1事務事業について、令和4年度は、事業未実施となっています。

④関与性

評価区分		事務事業数	割合 (%)
A	法令等で市が実施主体であることが定められた事務事業	11	31.4
B	市民サービスのため市が実施主体となるべき事務事業	21	60.0
C	市が民間サービスを補完している事務事業	3	8.6
D	民間が実施主体となるべき事務事業	0	0.0
		35	100.0

32事務事業、約91%の事務事業について、「法令等で市が実施主体であることが定められた事務事業」又は「市民サービスのため市が実施主体となるべき事務事業」と評価しています。「市が民間サービスを補完している事務事業」としている3事務事業についても、いずれも総合評価は「継続」と判断しています。

⑤総合評価

評価区分		事務事業数	割合 (%)
拡 充	施策の成果向上を図るための貢献度が非常に高く、さらに充実した取組が必要と判断される事務事業	2	5.7
継 続	施策の成果向上を図るための貢献度が高く、継続した取組が必要と判断される事務事業	32	91.5
縮 小	施策の成果向上を図るための貢献度が低下しており、事業手法や実施体制等を見直して縮小する必要があると判断される事務事業	1	2.8
完 了	所期の目的や成果を達成し、完了した事務事業	0	0.0
廃 止 (休止)	継続しても目的の達成や成果の向上が困難であるため、廃止(休止)する事務事業	0	0.0
		35	100.0

総合評価については、「拡充」と評価した事務事業が2つ、「縮小」と評価した事務事業が1つで、残りは全て「継続」となっています。

「縮小」の評価は一部業務を終了したためであり、今後、事業を再編して新たな形で施策を進める予定です。

学識経験者の知見の活用について

教育委員会が自己評価した結果に客観性・透明性を持たせるため、教育に関し学識経験を有する点検評価委員から外部評価者としての意見をいただきました。

意見の概要は、次のとおりで、次年度以降の課題解決への参考とします。

■下松市教育委員会事務事業点検評価委員

氏名	役職等
大木 訓子	下松市人権擁護委員 元下松市教育委員会教育指導員
霜川 正幸	山口大学名誉教授
森 徳治	下松市社会教育委員 下松市私立幼稚園協会会長

■各事務事業に関する意見

【No.1】学校施設の整備充実

- ・ 「下松市学校施設長寿命化計画」に沿って学校施設の改修・整備が進んでいる。小・中学校トイレの洋式化については、子どもたちの日常生活に密着したものであり、学校教育環境の全市的な水準化と公平化を図る上からも、なるべく早期に設置率 100% を達成してほしい。
- ・ 厳しい財政事情や限られた財源の中、優先順位をつけ安全安心で快適な施設整備を進めていると評価する。子どもたちや教職員にとって「安全安心な居場所」であることが前提の学校には、施設設備の安全性確保や長寿命化をめざす改修・整備は必要不可欠である。また、学校と地域の連携・協働が進み、地域開放が拡大する中、学校施設の要改修・整備箇所も増加することを是とし、継続的・計画的な環境整備を期待したい。今後は「令和の日本型学校教育」や「ポストコロナ期における新たな学び」を視野に、学習者の視点から学校施設のあり方を検討することが求められる。学校や地域と情報を共有しながら具体化をお願いしたい。
- ・ 学校施設の長寿命化や教育の ICT 化に向けて各学校の実態に応じて改修や整備を進めてほしい。特に生活様式の変化からトイレの洋式化については、早期に実施することが望ましいと考える。また老朽化している各小中学校のプール改修についても今後の利用方法等を検討し、早期の整備が望まれる。

【No.2】教育機器等の充実

- ・ 児童生徒への 1 人 1 台端末整備が完了し、ICT 機器を学習に有効活用するための環境整備を進めている。機器がスムーズに活用できるための設備の設置と、機器を使いこなせる指導力の向上及び学習ソフトの充実の両面から、関係各課と連携して新しい教

育システムが効果的に運用できるよう学校をバックアップしてほしい。

- ・ 教育の情報化がめざす児童生徒の情報活用力の育成、授業の ICT 活用の拡充、校務の情報化推進を支える事業として、学習端末、教材・教育用ソフトや電子黒板等が整備され、事業管理も確実である。今後、学習端末等の劣化、破損に伴う修繕、アップデートや情報セキュリティを含む機能維持管理、インターネット環境拡充のための整備や学校管理機器の高機能化等経費の増加が見込まれるが、本事業は児童生徒が今後の社会を生き抜くための力を育てる基盤的事業であり、ニーズも高いことをふまえ、ICT 支援員の配置等フォローアップ体制の整備も含めた拡充を期待したい。
- ・ ICT 機器の整備とともに使いこなすための教員研修の充実、適切なセキュリティ対策を講じることが必要である。統合型校務支援システムの導入は、教員の働き方改革にもつながるので、早期の導入が望ましい。

【No. 4】 学校図書館の充実

- ・ 司書教諭や学校司書だけではなく児童生徒の意見も取り入れながら、適切に廃棄と購入を進めてほしい。

【No. 5】 海外語学研修生派遣事業

- ・ 英語による理解力や表現力の向上、外国の文化や社会に対する理解の深化、国際性豊かな人材の育成を目的に、昭和 62 年度から実施された事業として、その妥当性や関与性は高く、今後も継続をお願いしたい。
- ・ グローバル化や国際理解教育の観点からも有意義な事業であると考えているが、保護者の経済的負担、費用対効果等を考慮すると期間や派遣先について検討していくことも必要である。

【No. 8】 教員補助員の配置

- ・ 教員補助員配置の必要性が高まる中、中学校における配置数が県内他市に比較して少ないという現状に対しては早急に対応できるとよい。また、教員補助員が自信をもって児童生徒の支援に当たれるように、相談・サポート体制や特別支援教育についての資質向上研修等による人材育成をとおして継続した人材確保につなげたい。
- ・ 時宜を得た的確で機動的なものであり、児童生徒、保護者や教職員に対する力強い支援となっており、継続配置をお願いしたい。また、教員補助員の指導力向上が不可欠であることから、研修の充実に向けた市教委のリーダーシップ発揮を期待したい。加えて、特別な支援を要する子どもを持つ保護者の不安や悩みが就学前に高まる傾向に配慮し、早期から幼稚園・保育所、小学校やこども未来部等との連携を強化し、教育的ニーズと必要な支援について合意形成を図る就学相談の拡充をお願いしたい。
- ・ 教員補助員の配置は、配慮を要する児童生徒の増加に伴い、教員の負担軽減から必要不可欠となっている。一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実のためにも拡充に努めてほしい。

【No. 9】 心豊かな子どもを育てる推進事業

- ・ 児童生徒の健全育成のために家庭・学校・地域住民・関係機関等が連携して活動する組織体として、コミュニティ・スクールや下松市青少年育成協議会等と趣旨や目的が重なる部分

が多い。それぞれが特色を生かしながらも共通理解を図りながら連携・協働した取組が実践できるようになるとよい。

- ・ 心豊かな子どもの育成は、本事業の共通実践目標の後半で「学校発!! ふれあいネットワーク」と掲げるように、学校・家庭・地域社会の人的・物的ネットワークによる地域ぐるみの取組が必要であり、その方向や取組を高く評価する。コミュニティ・スクールや地域協育ネットを生かし、地域の教育力を相乗的に活性化する中で、一層の推進を期待する。いじめ問題へのアプローチも同様であり、学校が児童生徒にとって心理的重圧のない安らぎの場となるよう、学校・地域の連携・協働により温かく豊かな教育文化や人権尊重の地域風土を醸成していきたい。関係機関等との緊密な連携をお願いしたい。

【No.10】下松市教育支援センター

- ・ 教育指導員の増員やサテライトルームの設置など、児童生徒へのきめ細かい支援の実現をめざした取組が進んでいる。通室生の増加や低年齢化に伴い、指導・支援体制における指導員の役割分担をさらに明確にするとともに、学校や関係機関との連携を密にして適切な指導・支援に努めてほしい。
- ・ 不登校は、複合的要因から「どの子にも起こりうる」状態であり、現代社会では教育、福祉、家庭や地域の経済・就労等も関係する複合的課題として取り組む必要がある。不登校状態にある児童生徒を減らし、社会的自立や学校復帰につなぐ「希望の星ラウンジ」や「サテライトルーム」の存在や機能は欠かせない。市教委の取組と実績を高く評価する。不登校の背景には、学校や地域が抱える多様な問題があり、多職種による多様な支援、学校内のチーム支援、専門機関とのネットワーク支援が求められる。環境整備、多様な支援人材活用、保護者に対する専門的ケア、専門家・機関との連携や教育外分野に経験を有するスタッフの参画等を期待したい。
- ・ 3年間のコロナ禍を経て、不登校児童生徒数が増加している。それに伴い教育支援センターの役割も重要となっている。交通の利便性にやや欠けていた支援センターにサテライトルームが3公民館に設置されたことはすばらしい。今後も拡充し、学校復帰への一歩となるよう努めてほしい。

【No.11】下松市カウンセリングルームや心の教室相談員の活用

- ・ 下松市では以前から、政策的意図を持って継続的に取り組まれている事業であり、実績や経験も豊かである。教員経験者やスクールカウンセラーに加えてスクールソーシャルワーカーも配置する等、「チーム学校」としての取組も進んでおり、事務事業として数値以上に正しく評価すべきと考える。子どもの生育の早まりに伴い、抱える不安や悩みも多様化、早期化し、学校での早期発見・早期対応がより強く求められている。カウンセリングルームの拡大、心の教室相談員の小学校(中・大規模校)配置、スクールカウンセラー等の学校派遣・配置時間の増加等について、市教委としてのリーダーシップを期待したい。
- ・ 3年間のコロナ禍を経て、心のケアを必要とする児童生徒も増えていると思われるので、スクールカウンセラーの整備は必要である。また、家庭内の問題が児童生徒の問題行動へとつながることが多い現状からスクールソーシャルワーカーの配置も有効である。配置時間増など拡充に努めてほしい。

【No. 1 2】下松市コミュニティ・スクール推進事業

- ・ 下松市の地域連携教育は、郷土に対する誇りと愛着の育成(くだまつ愛)、人づくりと地域づくりの融合(学びでつながる)、当事者意識を有する次世代の育成(子どもが実感)を推進テーマに掲げ、中学校区を単位に多様多彩な取組を展開している。3 高等学校も巻き込んだ学びと育ちの一貫的視点、豊かで質の高い情報発信、推進事業交付金交付、接続人材の全校配置等、ソフト・ハード両面の充実も特筆すべきであり高く評価する。本事業は、学校教育の質向上、地域の有為な後継者(人材)の育成に限らず、地域ぐるみで子どもを育てようとする当事者意識の醸成、地域教育力や地域創造力の活性化を図ろうとするものである。社会教育からのアプローチや地域振興部、こども未来部等との連携を強化し、地域・教育課題解決に向けたプラットフォーム事業としての拡充を期待したい。

【No. 1 4】学校における働き方改革の推進

- ・ 教員志望者の減少等から働き方改革は喫緊の課題である。教員業務支援員や部活動指導員の配置、統合型校務支援システムの導入・活用により教員の業務のスリム化に努める必要がある。教員が児童生徒と向き合う時間の確保に努めてほしい。

【No. 1 5】就学援助費交付事業

- ・ 貧困家庭やヤングケアラーの問題が顕在化している。家庭の状況や変化に応じて申請できることを教職員や保護者に広く周知し、児童生徒の学習に支障が出ないようにする必要がある。

【No. 1 6】学校給食の充実

- ・ 地元食材を活用した地産地消の取組は、栄養や安全面に加え子どもたちの地域への愛着を育てる上からも意義深い食育となるので、地域と連携して今後も積極的に取り入れるとよい。中学校給食センターは「学校給食衛生管理基準」に基づいた整備・更新がなされているが、安全安心な学校給食が継続できるように老朽化に対応する長期的かつ具体的な見通しをもち管理運営してほしい。
- ・ 下松市の学校給食は児童生徒から高く評価され、教職員や保護者からの評判も良い。また、「まるごと！下松給食の日」の取組は地場産物や地域の食文化の理解に加えて、児童生徒の下松市に対する誇りと愛着、キャリアプランニング能力の育成にも寄与している。事業に対する姿勢と事業運営力を高く評価するとともに、学校給食事業の啓発事業を充実させ、食育や学校給食に対する理解と協力が進むことを期待する。
- ・ 小学校給食におけるアレルギー対応、中学校でのセレクト給食等、きめ細やかな取組は素晴らしい。地産地消や食育の取組は、関係部局との連携をさらに密にして推進していく必要があると考える。

【No. 1 7】放課後子ども教室・家庭教育支援推進事業

- ・ いずれの事業も地域の子どもの地域で育てよう、地域でつながろうとする地域住民とその活動を支援するものである。高齢化や人材確保、資金確保等の様々な課題を行政と事業主体者が共通理解しサポートする必要がある。各事業を継続するための人材バンクネットについても情報収集と提供を行い、周知と有効活用に努めてほしい。

- ・ コロナ禍は、子どもの学びや育ち、親の教育・子育てに関する環境に影響を与え、児童虐待や健全育成上の問題を増幅させている。地域社会に豊かな「つながり(関係性)」を形成し、親を温かく豊かなつながりで包みこむことが必要である。「放課後子ども教室」、「地域未来塾」や「子育て広場」等様々な取組を拡充させてきたことを高く評価したい。その際、成果を子どもの学習や生活の向上で見ただけでなく、親同士、親と相談員、専門家や地域住民等の「つながりの形成度」でも評価することが必要と指摘する。その点で、家庭教育支援施策の拡充を強く願うものであり、機動力と実践力に富む家庭教育支援チームを中心とした具体化、活性化を期待したい。
- ・ 放課後子ども教室は、各小学校のコミュニティ・スクールとの連携を密にしてさらに発展・充実していくことが望ましい。地域未来塾は、時代の要請にマッチしており、拡充に努めてほしい。

【No.18】子ども会活動支援事業

- ・ 子ども会活動は、豊かな体験活動を仲間と共有することをおして、子どもと集団の相乗的成長を図るコミュニティ活動、社会教育活動であり、健全育成や地域の教育力向上に大きく貢献する可能性がある。市教委が参加者や単位子ども会の減少を危惧し、対応施策を真剣に検討していることに敬意を表したい。子ども会の意義や可能性の教育啓発、子どもを中心に据えることの再確認と活動開発、若い親世代の参画を促す柔軟な方法や形態の工夫、育成者や指導者に対する実践的研修の充実、単位子ども会の自立促進支援(財源を含む)等について、市教委としてのリーダーシップを期待したい。
- ・ 加入率の低下は地域の教育力の低下にもつながる。各校のコミュニティ・スクールとも連携したり単位子ども会の合併や拡大の支援をしたりして、加入率の向上が望まれる。未加入者に対する活動の周知や情報提供等にも取り組む必要がある。

【No.20】青少年育成の啓発・情報提供

- ・ ボランティアスタッフの固定化で内容や活動を充実させることが課題とされているが、地域に根ざした記事やカラフルな「ねえ」の誌面は読みやすく親しみを感じる市民は少なくないと思われる。市のホームページでも呼びかけているが、市広報等でも新規スタッフを募集したり体験的な活動を試みてみたりするなどの工夫により市民へのさらなる周知を図るとよい。
- ・ 星の子ネットの「ねえ」は、43号では国際化を、44号では歴史遺産・財を取り上げ、下松市の再発見、価値付けを行っている。健全育成情報や男女共同参画・子育て情報も盛り込まれ、市民参画型の情報発信・広報啓発としての質も高い。現在、多くの市民、特に子育て世代で利用頻度が高い情報収集源は「ネット検索」、「SNS」、「家族・友人」と続き「自治体発信情報」は10位(1.6%)という現状がある。各種SNSの活用を進め、市民にインフォーマルな学びを提供することが必要と考える。

【No.22】公民館施設管理整備事業

- ・ 限られた財源の中、下松市社会教育施設等長寿命化計画に基づき、総合的・長期的な観点から社会教育施設の機能を確保し、順調に更新・改修を行っている。堅実な進行管理を評価する。公民館は、市民が地域課題を共有し、自分ごととし、課題解決に向けて行う共同学習を支援する社会教育の拠点施設である。同時に、地域づくりやコミュニティ形成につな

がる市民交流拠点でもある。効率的な管理運営、指定管理者制度による事業やサービスの多様化・合理化・効率化、ソフト事業の充実を図るとともに、オンライン活用やオンデマンドコンテンツの開発等による高機能化(DX化)への着手を期待したい。

- ・ 公民館は生涯学習、地域コミュニティ、地域防災のための重要拠点である。地域住民の意見を取り入れ、地域の実態に合った施設整備を着実に推進してほしい。また、社会のICT化に伴い施設のWi-Fi化も進めてほしい。

【No.23】生涯学習活動の推進・支援事業

- ・ コロナ禍にあったが、公民館講座では7分野13領域に多彩な講座が実施され受講者数も増加している。生涯学習は、ただ単に生涯通じて自発的に学ぶことではなく、学びを社会変革や地域づくりの推進エンジンとして、自己実現や社会参加を図るものでもある。如何に男性・若年層を撒き込むかが重要であり、受講動機向上を促す工夫改善を期待する。今後は、居住公民館区を越えて、他公民館や生涯学習関係施設の実施講座等に気軽に参加できる環境や機運の醸成が必要である。ウェブやSNS等を活用した情報発信の工夫改善を期待したい。
- ・ 市内各公民館で行われる講座情報をまとめた貴重な生涯学習情報である「とくとく情報」等、ネットを活用し、様々な生涯学習情報の提供に努めてほしい。

【No.25】二十歳のつどい

- ・ 実行委員による自主的な運営は、大変よいことであるので、継続・充実に努めてほしい。

【No.27】下松市連合婦人会活動支援

- ・ 連合婦人は、様々な場で地域貢献をしており、重要な社会教育団体である。高齢化や会員の減少など課題も多いが、継続発展のために行政も積極的に支援する必要があると考える。

【No.29】吹奏楽の活動支援

- ・ 「吹奏楽のまち 下松」に向けて、「つどい」「クリニック」等の事業は継続・発展させてほしい。吹奏楽協会について市民への周知を工夫し、会員増に取り組んでほしい。

【No.30】文化会館管理運営事業

- ・ 駐車場の心配がいない、下松市が誇る重要な施設である。長寿命化計画に基づき、施設の維持管理・更新を確実に進めてほしい。

【No.31】歴史・伝統の保護・活用事業

- ・ 天王森古墳に関わる発表が全国的に注目される中、下松市の埋蔵文化財の価値や歴史を市民が認識し文化財への関心を高め、わがまちへの誇りと愛着を高める機運としたい。そのためにも貴重な文化財の保存と活用を適切に行うことができる専門的知識を備えた職員の配置は市としても喫緊の課題であり人材確保に努めてほしい。
- ・ 本事業は、市民の文化財や歴史資産に対する保護意識の向上、郷土の歴史や文化の伝承を目指すものである。同時に、市民、特に子どもたちに、下松市の歴史、文化や先人の歩

みを味わわせる中で、「郷土くだまつ」に対する誇り、自信や愛着を育て、今後のまちづくりに「自分ごと」として関与するエネルギーを与えることにもなる。一層の情報発信をお願いしたい。文化財や伝統芸能等を担う次世代人材の育成も重要である。現在、学校や幼稚園、保育所等の教育・保育や地域の伝承行事の中で、幼少期からふるさと下松の「歴史や文化を理解する」取組が積極的に行われている。その尽力に敬意を表すが、同時に、当地の歴史や文化を「継承・発展させてきた感動的な人に出会わせる」取組も意義あることと考える。学校教育との連携、地域連携教育の活用等を進めてほしいと願う。

- ・ 天王森古墳からの埴輪の出土を始め、本市には貴重な埋蔵文化財が多くある。その保存・整理・管理等をするために、専門的な知識を持つ職員の確保と、展示施設の整備が望まれる。

【No.3 3】子どもの読書活動の促進

- ・ 子どもたちが図書館の役割や活用方法を理解し、積極的に読書活動や調査研究に生かせる実践的な力を育てるためにも「星ふるまちの図書館教育」は重要であり、市内全小学校において対面実施できたことは喜ばしい。親子読書推進事業や「科学のおはなし会」等の子ども対象の各種行事は子どもや保護者と図書館をつなぐ楽しく貴重な体験として成果を上げている。
- ・ 読書活動の充実には、(1)子どもの視点に立ち読書に誘う動機付け、(2)デジタル社会に対応した読書環境、(3)多様な子どもたちへの読書機会の提供が必要である。図書館は(1)では「星ふるまちの図書館教育」、「一日子ども図書館員」、(2)では「ティーンズコーナー」等を提供し、その仕掛けや情報発信はレベルが高い。「星ふるまちの図書館教育」の中学校への拡がりを期待する。なお、(3)について、障害がある子ども、外国籍や日本語指導が必要な子ども等の読書活動支援について、学校、公民館や放課後子ども教室等と連携し、読書活動を通じた「つながり」の形成と読書機会の提供を進めてほしい。
- ・ 小学校への図書館教育の出前講座や子どもへの「科学のおはなし会」、「一日子ども図書館員」、読書通帳等、様々な読書活動促進についての取組は大変評価できる。今後も充実・発展に努めてほしい。

【No.3 4】図書館の充実

- ・ コロナ禍にあって、貸出の利用者や冊数が増加した事実は、「コロナを言い訳にしない」積極的な行政姿勢、市民の読書傾向やニーズ等収集の的確さ、適切な感染症対策の表れとして評価する。図書館のハイブリッド化も進み、特に郷土資料や文化遺産に関するデジタルアーカイブは、掲載資料やテキストの質と量、読みやすさや操作性に優れ、下松を身近に感じられるものとなっている。市民の認知度や閲覧・活用度の向上が課題であり、広報誌・紙、ホームページや SNS 等を通じた広報周知を期待する。
- ・ 電子図書館や郷土資料デジタルアーカイブやリーフレット「日本の歴史から見るくだまつ」、電子図書館等、意欲的な取組はすばらしい。このような取組をネット等様々な手段を使って市民への周知に努めてほしい。

【No.3 5】移動図書館の充実

- ・ 市民のニーズや期待に応えようとする様子が伺える。移動図書館は、図書館を必要としてい

ながら利用できない市民に対して図書館サービスを提供するものであるが、「あおぞら号」を中心に「地域のつながり」を形成し、連带的、包摂的で安全安心な地域をつくるという現代的・社会的機能をも期待されている。利用実態や市民ニーズに加えて、地勢、集落配置、利用弱者の実情等に配慮し、地域振興・健康福祉部局等と連携しながら進めてほしい。

- ・ 移動図書館「あおぞら号」の運行は容易に図書館へ行けない人にとっては大変貴重である。運行する場所や時間について住民の意見を反映した運行に努めてほしい。

事務事業の評価結果

No.	事務事業名	事業費（千円）		総合評価	担当課
		R3年度	R4年度		
1	学校施設の整備充実	641,439	220,618	継続	教育総務課
2	教育機器等の充実	120,771	70,365	継続	教育総務課
3	学校用地の確保	17,253	17,757	継続	教育総務課
4	学校図書館の充実	8,162	6,075	継続	教育総務課
5	海外語学研修生派遣事業	0	0	継続	教育総務課
6	小学校ALT派遣	5,670	5,984	継続	学校教育課
7	中学校ALT派遣	4,543	4,711	継続	学校教育課
8	教員補助員の配置	29,492	29,021	拡充	学校教育課
9	心豊かな子どもを育てる推進事業	659	712	継続	学校教育課
10	下松市教育支援センター	12,361	11,287	継続	学校教育課
11	下松市カウンセリングルームや心の教室相談員の活用	3,022	3,038	継続	学校教育課
12	下松市コミュニティ・スクール推進事業	7,291	7,090	継続	学校教育課
13	学校ガードボランティアの推進	76	229	継続	学校教育課
14	学校における働き方改革の推進	6,967	7,148	継続	学校教育課
15	就学援助費交付事業	48,776	48,429	継続	学校教育課
16	学校給食の充実	459,494	469,294	継続	学校給食課
17	放課後子ども教室・家庭教育支援推進事業	887	1,198	継続	生涯学習振興課
18	子ども会活動支援事業	203	392	継続	生涯学習振興課
19	青少年の健全育成活動	139	122	継続	生涯学習振興課

20	青少年育成の啓発・情報提供	337	366	継続	生涯学習振興課
21	青少年相談業務	62	90	継続	生涯学習振興課
22	公民館施設管理整備事業	203,661	450,024	継続	生涯学習振興課
23	生涯学習活動の推進・支援事業	119	395	継続	生涯学習振興課
24	生涯学習による人づくり・地域づくり事業	1,349	344	縮小	生涯学習振興課
25	二十歳のつどい	1,489	1,392	継続	生涯学習振興課
26	下松市民憲章推進によるまちづくり	209	209	継続	生涯学習振興課
27	下松市連合婦人会活動支援	77	77	継続	生涯学習振興課
28	芸術文化の振興	1,894	2,007	継続	生涯学習振興課
29	吹奏楽の活動支援	745	745	継続	生涯学習振興課
30	文化会館管理運営事業	138,805	148,819	継続	生涯学習振興課
31	歴史・伝統の保護・活用事業	13,523	9,998	継続	生涯学習振興課
32	人権教育	1,342	1,565	継続	生涯学習振興課
33	子どもの読書活動の促進	883	520	継続	図書館
34	図書館の充実	80,431	78,289	継続	図書館
35	移動図書館の充実	3,901	3,905	継続	図書館

令和5年度(令和4年度対象)

事務事業評価シート

事務事業評価シート【No.1】

事務事業	☆学校施設の整備充実	担当課	教育総務課
------	------------	-----	-------

1 事務事業の概要

<p>学校施設の適切な維持管理を行い、安全安心で快適な教育環境を確保するため、「下松市学校施設長寿命化計画」に基づき、施設改修や環境整備を進める。</p> <p>花岡小学校第4校舎及び配膳室の改築に着手する。計画的に小中学校の特別教室に空調を設置及びトイレの洋式化・ドライ化を実施する。</p>

2 事務事業のコスト

単位：千円

R3年度 決算額	641,439	R4年度 決算見込額	220,618	R5年度 予算額	532,119
-------------	---------	---------------	---------	-------------	---------

3 事務事業を構成する業務

番 号	業 務 名	番 号	業 務 名
1	花岡小学校特別教室棟改築工事	5	久保中学校特別教室空調設備設置工事
2	豊井小学校普通教室棟改修工事	6	末武中学校特別教室空調設備設置工事
3	豊井小学校トイレ改修工事	7	一般工事・修繕・調査設計
4	東陽小学校トイレ改修工事		

4 事務事業の評価

妥当性	有効性	効率性	関与性	総合評価
A	A	A	A	継続

5 事務事業の今後の課題

<p>学校施設の長寿命化に向けて、劣化状況や児童生徒数の推移、学校の実態を考慮し、随時計画を見直す必要がある。また長寿命化改修による整備にあたって、安全・安心で持続可能な教育環境の確保と、新しい時代の学びを実現する教育環境の向上を一体的に推進していく。</p> <p>市内小中学校プールについては、現状調査を踏まえ、改修規模の縮小化や共同利用等、多角的な検討・協議を進める。</p>

事務事業評価シート【No.2】

事務事業	☆教育機器等の充実	担当課	教育総務課
------	-----------	-----	-------

1 事務事業の概要

G I G Aスクール構想の実現に向けて、I C T教育の環境整備を行う。学習場面でのI C Tの効果的な活用を図るため、学習ソフトを整備する。無線アクセスポイント、大型提示装置、プログラミング教材等を計画的に整備する。

2 事務事業のコスト

単位：千円

R 3年度 決算額	1 2 0, 7 7 1	R 4年度 決算見込額	7 0, 3 6 5	R 5年度 予算額	8 4, 0 6 4
--------------	--------------	----------------	------------	--------------	------------

3 事務事業を構成する業務

番 号	業 務 名	番 号	業 務 名
1	通信環境増強	5	I C T機器整備
2	教育用端末（学習用、教師用）の整備	6	サポート体制の確立
3	校務用端末の整備	7	タブレット修繕
4	教材、教育用ソフト等の整備	8	統合型校務支援システムの導入

4 事務事業の評価

妥当性	有効性	効率性	関与性	総合評価
A	A	B	A	継続

5 事務事業の今後の課題

G I G Aスクール構想の実現に向けて、I C T機器の一層の活用を図るため、L A N、アクセスポイント、モバイルWi-Fiルータの整備を行う。

G I G Aスクール構想の下での、統合型校務支援システム導入に向けた準備を進める。

事務事業評価シート【No.3】

事務事業	学校用地の確保	担当課	教育総務課
------	---------	-----	-------

1 事務事業の概要

小学校4校（下松、久保、花岡、公集）の借地について賃貸借契約を継続するとともに、所有者の意向を確認し、可能性があれば土地を買収する交渉を進める。
--

2 事務事業のコスト

単位：千円

R3年度 決算額	17,253	R4年度 決算見込額	17,757	R5年度 予算額	17,678
-------------	--------	---------------	--------	-------------	--------

3 事務事業を構成する業務

番 号	業 務 名	番 号	業 務 名
1	学校用地賃貸借事務（下松小学校・久保小学校・公集小学校・花岡小学校）		
2	学校用地取得		

4 事務事業の評価

妥当性	有効性	効率性	関与性	総合評価
A	B	B	B	継続

5 事務事業の今後の課題

学校用地については、借地料の考え方について所有者の理解を得ることが必要である。また、相続等により、所有者が複数人となるケースや県外居住者である場合もあり、事務も複雑になる。今後、借地の利用状況も検討しつつ、可能な限り早期に借地解消を図る必要がある。
--

事務事業評価シート【No.4】

事務事業	学校図書館の充実	担当課	教育総務課
------	----------	-----	-------

1 事務事業の概要

<p>「下松市学校図書館図書整備計画」に基づく蔵書の充実、適切な蔵書管理等を進め、教育活動への有効活用を図る。蔵書管理については、電子図書台帳を有効に活用する。児童生徒が現実社会の諸課題に多角的に考察し、公正に判断する力等を身につけるため、小学校1紙、中学校2紙の新聞を配備する。</p>
--

2 事務事業のコスト

単位：千円

R3年度 決算額	8, 162	R4年度 決算見込額	6, 075	R5年度 予算額	6, 223
-------------	--------	---------------	--------	-------------	--------

3 事務事業を構成する業務

番 号	業 務 名	番 号	業 務 名
1	学校配当予算の執行管理に関する事務		
2	学校図書館図書整備		

4 事務事業の評価

妥当性	有効性	効率性	関与性	総合評価
A	A	A	B	継続

5 事務事業の今後の課題

<p>文部科学省の「学校図書館図書標準」を踏まえて策定された「下松市学校図書館図書整備計画」に基づき、令和7年度末までに整備率100%となるよう、学校の状況に応じて購入・廃棄を行う。</p>

事務事業評価シート【No.5】

事務事業	海外語学研修生派遣事業	担当課	教育総務課
------	-------------	-----	-------

1 事務事業の概要

<p>本市在住の中学生と市立小中学校の教諭を海外に派遣し、語学研修やホームステイを通じて、英語力の向上及び異文化の理解を図り、さらに国際協力活動を推進する。また、帰国後は研修報告の機会を設けることで、新たな次のステップに挑戦する契機とする。</p>
--

2 事務事業のコスト

単位：千円

R3年度 決算額	0	R4年度 決算見込額	0	R5年度 予算額	5,200
-------------	---	---------------	---	-------------	-------

涵養

3 事務事業を構成する業務

番 号	業 務 名	番 号	業 務 名
1	下松市中学生等海外語学研修派遣事業		

4 事務事業の評価

妥当性	有効性	効率性	関与性	総合評価
B	—	—	B	継続

5 事務事業の今後の課題

<p>本事業は、参加した生徒及び教諭にとって、国際理解とコミュニケーション能力を備えた人材育成を図り、外国語や多文化について学習する機会を与える有意義な事業である。</p> <p>本事業の実施にあたり、安全安心かつ円滑なプログラムの遂行について、他市町と協議を継続する。</p> <p>なお、令和2年度から令和5年度については、新型コロナウイルス感染症拡大により、事業を中止した。</p>
--

事務事業評価シート【No.6】

事務事業	小学校ALT派遣	担当課	学校教育課
------	----------	-----	-------

1 事務事業の概要

<p>小学校学習指導要領を踏まえた教育内容の充実を図るとともに、グローバル化に対応した英語教育を一層推進するため、小学校5・6年生の外国語科の授業や、小学校3・4年生の外国語活動等において、英語指導助手（ALT）を全小学校に派遣する。</p>

2 事務事業のコスト

単位：千円

R3年度決算額	5,670	R4年度決算見込額	5,984	R5年度予算額	6,937
---------	-------	-----------	-------	---------	-------

3 事務事業を構成する業務

番 号	業 務 名	番 号	業 務 名
1	小学校ALT派遣		

4 事務事業の評価

妥当性	有効性	効率性	関与性	総合評価
A	A	B	B	継続

5 事務事業の今後の課題

<p>現行の学習指導要領では、3・4年生の外国語活動は年間35時間、5・6年生の外国語科は年間70時間と時数が増え、話すことや聞くことによる言語活動が重視されている。今後も、ALTの支援を受けることで、児童が生きた英語にふれながら、英語での会話を楽しんだり、目的に合わせた答えを考えながら英語で話したりできる機会を増やしていくことが、中学校での英語のよりよい学習につながっていく。</p> <p>また、ALTとふれ合うことで、外国の文化にもふれる機会ができる。これらは、学級担任とのやりとりだけでは得られない効果である。</p>
--

事務事業評価シート【No.7】

事務事業	中学校ALT派遣	担当課	学校教育課
------	----------	-----	-------

1 事務事業の概要

<p>「語学指導等を行う外国青年招致事業」により、英語圏からALTを招致して、言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーション能力の基礎を養うなど、中学校における外国語教育の一層の充実を図る。</p>
--

2 事務事業のコスト

単位：千円

R3年度決算額	4,543	R4年度決算見込額	4,711	R5年度予算額	5,561
---------	-------	-----------	-------	---------	-------

3 事務事業を構成する業務

番 号	業 務 名	番 号	業 務 名
1	中学校ALT派遣		

4 事務事業の評価

妥当性	有効性	効率性	関与性	総合評価
A	A	B	B	継続

5 事務事業の今後の課題

<p>学習指導要領において、実際に英語を使用して考えや気持ちを伝え合うという言語活動が重視されている。英語を用いて話したり聞いたりする中で、情報を整理しながら考えを形成するという力の育成は、ネイティブの生きた英語にふれることで、さらに高いレベルに生徒を育て上げることができる。</p> <p>今後も、ALTと中学校英語教員とが連携を図り、よりよい授業を生徒に提供することで、このような機会を増やし、小学校で身に付けた「英語を聞く力」や「英語を話す力」を伸ばしていかなければならない。</p>

事務事業評価シート【No.8】

事務事業	教員補助員の配置	担当課	学校教育課
------	----------	-----	-------

1 事務事業の概要

<p>障害のある児童生徒や個別の支援が必要な児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを的確に把握し、個に応じた適切な指導・対応を充実させるために、特別な教育的支援が必要な児童生徒が在籍している小中学校等に教員補助員を配置する。</p>

2 事務事業のコスト

単位：千円

R 3年度 決算額	29,492	R 4年度 決算見込額	29,021	R 5年度 予算額	33,254
--------------	--------	----------------	--------	--------------	--------

3 事務事業を構成する業務

番 号	業 務 名	番 号	業 務 名
1	特別支援教育教員補助員配置		

4 事務事業の評価

妥当性	有効性	効率性	関与性	総合評価
A	B	A	B	拡充

5 事務事業の今後の課題

<p>特別支援学級に在籍する児童生徒のみならず、通常学級においても特別な配慮・補助等の支援を要する児童生徒は増加しており、国・県の掲げる一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育を実現させる上で、教員補助員はなくてはならないものになっている。</p> <p>本市の教員補助員の配置数・割合は、県内他市と比較し、小学校では同程度、中学校では少ない状況にある。今後も引き続き予算を確保し、継続的・安定的に人員を配置することで、教員補助員に対する研修の充実を含めた特別支援教育のさらなる充実及び体制整備を図る必要がある。</p>
--

事務事業評価シート【No.9】

事務事業	心豊かな子どもを育てる推進事業	担当課	学校教育課
------	-----------------	-----	-------

1 事務事業の概要

<p>家庭、学校、地域住民、関係機関等が一体となって、児童生徒の生徒指導上の課題への対応や健全育成に向けて、地域のネットワークづくりを視野に「あいさつ運動」や学校におけるボランティア活動などの実践的な取組を行う。また、関係機関及び団体の連携を図り、いじめの防止等に向けた全市民的な取組を推進する。</p>
--

2 事務事業のコスト

単位：千円

R3年度 決算額	659	R4年度 決算見込額	712	R5年度 予算額	1,280
-------------	-----	---------------	-----	-------------	-------

3 事務事業を構成する業務

番 号	業 務 名	番 号	業 務 名
1	心豊かな子どもを育てる推進事業		

4 事務事業の評価

妥当性	有効性	効率性	関与性	総合評価
A	B	A	A	継続

5 事務事業の今後の課題

<p>下松教育の基本目標である「心豊かに生きる力を育む」の実現に向け、コミュニティ・スクールの機能を活用するなど、学校・家庭・地域の連携を一層進める必要がある。</p> <p>本事業の協議会は、「下松市いじめ防止基本方針」に基づく、「いじめ問題対策連絡協議会」としての機能を有しており、さまざまな関係団体の連携・協力の下、いじめの未然防止に向けた啓発活動等に、今後も積極的に取り組んでいく。</p>

事務事業評価シート【No.10】

事務事業	☆下松市教育支援センター	担当課	学校教育課
------	--------------	-----	-------

1 事務事業の概要

<p>下松市教育支援センター「希望の星ラウンジ」に教育指導員、学習支援員、生徒指導支援員を配置し、不登校児童生徒に対し、学校生活及び社会生活への適応指導を行う。要請があれば学校訪問・家庭訪問を行い、自宅に引きこもりがちな児童・生徒及び保護者等を支援する。また、令和5年度からは、市内3箇所の公民館に「希望の星ラウンジサテライトルーム」を開設し、不登校児童生徒への支援拡充を図る。</p>

2 事務事業のコスト

単位：千円

R3年度 決算額	12,361	R4年度 決算見込額	11,287	R5年度 予算額	14,619
-------------	--------	---------------	--------	-------------	--------

3 事務事業を構成する業務

番 号	業 務 名	番 号	業 務 名
1	下松市教育支援センター「希望の星ラウンジ」指導員配置		

4 事務事業の評価

妥当性	有効性	効率性	関与性	総合評価
A	B	A	A	継続

5 事務事業の今後の課題

<p>本市における不登校児童生徒の出現率は増加傾向にあり、それに伴い、通室生も増加している。また、児童生徒本人や保護者等からの電話や来室による相談は、年間70件を超えている。学校・家庭と連携を図り、一人でも多くの児童生徒の社会的自立をめざすとともに、学校復帰にもつなげたい。児童生徒の不登校の要因は多岐にわたっており、今後は進路指導等を含め、一人ひとりのニーズにあわせた施策の更なる充実が望まれる。</p>

事務事業評価シート【No.11】

事務事業	下松市カウンセリングルームや心の教室相談員の活用	担当課	学校教育課
------	--------------------------	-----	-------

1 事務事業の概要

<p>下松市カウンセリングルーム「くだまつふれあいラウンジ」を公集小学校内に設置し、臨床心理士が児童生徒や保護者、教職員等の相談に応じることにより、不登校やいじめなどの問題行動の解決につなげる。また、全中学校に「心の教室相談員」を配置して相談活動を充実させることにより、生徒の抱える悩みや不安等の解消に努める。</p>

2 事務事業のコスト

単位：千円

R3年度 決算額	3,022	R4年度 決算見込額	3,038	R5年度 予算額	3,144
-------------	-------	---------------	-------	-------------	-------

3 事務事業を構成する業務

番 号	業 務 名	番 号	業 務 名
1	スクールカウンセラーの配置		
2	心の教室相談員の配置		

4 事務事業の評価

妥当性	有効性	効率性	関与性	総合評価
A	B	A	A	継続

5 事務事業の今後の課題

<p>現在、カウンセリングルームは公集小学校内に設置、心の教室相談員は各中学校に配置しているが、スクールカウンセラーの学校派遣や配置時間の増加について引き続き検討していく必要がある。また、下松市カウンセリングルームにはスクールソーシャルワーカーを継続配置するなど、様々な分野に精通した専門家を拡充し、諸課題の早期解決を図っている。しかし、児童生徒や保護者が抱える諸課題が多岐にわたっている現状を踏まえ、よりきめ細やかな対応が必要となっている。</p>

事務事業評価シート【No.12】

事務事業	下松市コミュニティ・スクール推進事業	担当課	学校教育課
------	--------------------	-----	-------

1 事務事業の概要

<p>「地域とともにある学校づくりの推進」をめざし、学校・家庭・地域が一体となって課題解決に取り組む、学校運営の改善と教育活動の充実に努める。それぞれが「教育の当事者」としての参画意識を高め、次代を担う児童生徒の育成に資する。</p>

2 事務事業のコスト

単位：千円

R3年度 決算額	7, 291	R4年度 決算見込額	7, 090	R5年度 予算額	7, 794
-------------	--------	---------------	--------	-------------	--------

3 事務事業を構成する業務

番 号	業 務 名	番 号	業 務 名
1	C S推進事業交付金		
2	下松市C Sコーディネーターの配置		

4 事務事業の評価

妥当性	有効性	効率性	関与性	総合評価
A	A	B	A	継続

5 事務事業の今後の課題

<p>下松教育の基本目標である「心豊かに生きる力を育む」ためには、学校・家庭・地域が連携・協働して、コミュニティ・スクールの取組の充実に努めることが求められている。本市では、C S推進事業交付金の交付やC Sコーディネーターの全小中学校への配置等により取組の一層の充実に図っており、こうした取組により、子どもたちの郷土を愛する心や地域貢献・社会貢献の意識の高まりにつなげ、主体的に「まちづくり」に関わることのできる人材の育成に努めたい。</p>
--

事務事業評価シート【No.13】

事務事業	学校ガードボランティアの推進	担当課	学校教育課
------	----------------	-----	-------

1 事務事業の概要

<p>学校ガードボランティアに登録した市内小中学校の児童生徒の保護者や地域住民が、学校と連携し、通学路及び学校周辺のパトロールなどを行い、登下校時における児童生徒の安全確保及び地域や学校周辺の防犯活動を推進する。</p>
--

2 事務事業のコスト

単位：千円

R3年度 決算額	76	R4年度 決算見込額	229	R5年度 予算額	250
-------------	----	---------------	-----	-------------	-----

3 事務事業を構成する業務

番 号	業 務 名	番 号	業 務 名
1	学校ガードボランティア推進事業		

4 事務事業の評価

妥当性	有効性	効率性	関与性	総合評価
A	B	A	A	継続

5 事務事業の今後の課題

<p>登下校時における交通安全や不審者への対応等、児童生徒の安全・安心の確保に向けて、学校ガードボランティアの見守り活動は大きな役割を担っている。近年、ボランティアの高齢化が進み、登録者数が減少してきたこともあり、新規ボランティアの確保と学校・ボランティア・警察等との連携体制の構築が必要である。</p>
--

事務事業評価シート【No.14】

事務事業	学校における働き方改革の推進	担当課	学校教育課
------	----------------	-----	-------

1 事務事業の概要

<p>学校における働き方改革を推進するため、教職員の事務補助を行う教員業務支援員や、部活動における技術指導や保護者との連絡調整等を行う部活動支援員を必要に応じて各学校に配置する。</p>

2 事務事業のコスト

単位：千円

R3年度 決算額	6,967	R4年度 決算見込額	7,148	R5年度 予算額	9,716
-------------	-------	---------------	-------	-------------	-------

3 事務事業を構成する業務

番 号	業 務 名	番 号	業 務 名
1	教員業務支援員の配置		
2	部活動指導員の配置		

4 事務事業の評価

妥当性	有効性	効率性	関与性	総合評価
A	A	A	A	継続

5 事務事業の今後の課題

<p>教育職員の時間外勤務の上限に係る法整備が行われ、令和2年度から施行されたことに伴い、管理者には、教育職員の業務量の適切な管理や、健康及び福祉の確保を図るための措置を講じることが一層求められている。そのため、学校における働き方改革の推進は必須であり、業務の見直し・効率化、勤務体制等の改善、ICTの効果的な活用、学校支援人材の配置・活用などの取組を総合的に推進していくことが重要である。</p>

事務事業評価シート【No.15】

事務事業	就学援助費交付事業	担当課	学校教育課
------	-----------	-----	-------

1 事務事業の概要

<p>経済的な理由により、学校の給食費などの就学に必要な費用の負担が困難な保護者に対して、教育費の一部を援助する。</p>

2 事務事業のコスト

単位：千円

R3年度 決算額	48,776	R4年度 決算見込額	48,429	R5年度 予算額	74,380
-------------	--------	---------------	--------	-------------	--------

3 事務事業を構成する業務

番 号	業 務 名	番 号	業 務 名
1	要・準要保護児童生徒就学援助費		

4 事務事業の評価

妥当性	有効性	効率性	関与性	総合評価
A	A	A	A	継続

5 事務事業の今後の課題

<p>就学援助費の制度について、引き続き保護者に周知を行い、進級時、転入、転居、離婚、生活保護廃止等の家庭状況の変化に応じて申請してもらい、援助費を交付することで低所得世帯の経済的負担の軽減を図ることが重要である。</p>

事務事業評価シート【No.16】

事務事業	学校給食の充実	担当課	学校給食課
------	---------	-----	-------

1 事務事業の概要

<p>学校給食の教育的意義を尊重し、楽しく豊かなよりよい学校給食の実施に向け、地産地消の取組や食に関する情報発信などを関係各課と連携して行っている。学校給食の目的に合ったバランスの取れた給食を提供するため、月ごとにテーマを決め、そのテーマに沿った献立を作成している。また学校へ栄養教諭等の巡回訪問を行い、児童や生徒に直接伝える取組も行っている。</p> <p>また、小学校では乳及び卵アレルギーに対応した除去食を実施し、中学校では食生活における自己管理能力を高めるため、副食について複数メニューによるセレクト給食を行っている。</p>

2 事務事業のコスト

単位：千円

R3年度 決算額	459,494	R4年度 決算見込額	469,294	R5年度 予算額	556,543
-------------	---------	---------------	---------	-------------	---------

3 事務事業を構成する業務

番 号	業 務 名	番 号	業 務 名
1	給食センター管理運営業務		

4 事務事業の評価

妥当性	有効性	効率性	関与性	総合評価
B	B	B	A	継続

5 事務事業の今後の課題

<p>学校給食センターは、異物の混入や食中毒が発生しないように衛生管理等に注意し、食育やアレルギー対応を継続し、安全に給食が喫食できるように取り組まなければならない。</p> <p>施設・設備・備品等の定期的な点検、修繕、更新を行う。特に、中学校給食センターは、平成8年4月稼働開始から27年が経過しているため、学校給食衛生管理基準に基づいた施設整備や調理機器の更新等を計画的に実施していく必要がある。</p> <p>食育推進のため、学校の巡回訪問等の各種取り組みについては、引き続き実施に努める。</p>

事務事業評価シート【No.17】

事務事業	☆放課後子ども教室・家庭教育支援推進事業	担当課	生涯学習振興課
------	----------------------	-----	---------

1 事務事業の概要

放課後（休日、長期休業を含む。）に、公民館や学校施設などを活用した子どもたちの体験活動や交流の拠点（居場所）を設け、地域住民の参画により、心豊かで健やかに育まれる地域環境づくりを推進する。

就学時健康診断の機会を活用した「子育て・親育ち講座」（小学校）及び参観日や保護者全体会で「思春期子育て講座」（中学校）を実施する。

すべての親が安心して子育てが行える地域づくりを目指して、地域の子育て経験者や専門家による「家庭教育支援チーム」の立ち上げ及び支援チームが行う親同士のつながりづくり、相談対応、中学校での子育て広場の開催等の活動を支援する。

令和元年度から、塾に通っておらず、学習習慣を身につけ、学習内容の基礎固めをしたいと考えている中学生を対象に、教員OBや地域住民の協力のもと、学習支援を行う「地域未来塾」を実施している。

2 事務事業のコスト

単位：千円

R3年度 決算額	887	R4年度 決算見込額	1,198	R5年度 予算額	1,755
-------------	-----	---------------	-------	-------------	-------

3 事務事業を構成する業務

番 号	業 務 名	番 号	業 務 名
1	子ども教室の開設・運営に関する業務	4	地域未来塾事業に関する業務
2	小中学校の各子育て講座に関する業務		
3	家庭教育支援チームに関する業務		

4 事務事業の評価

妥当性	有効性	効率性	関与性	総合評価
B	B	B	B	継続

5 事務事業の今後の課題

- ・「放課後子ども教室事業」では、地域の人材を活用することによりスタッフの増員を図り、活動メニューの工夫や開発に努める。
- ・各放課後子ども教室と、学校や児童クラブとの連携や家庭との確実な連絡（安全面）に努める。
- ・久保中学校と下松中学校で行う「学校内子育て広場」では、各地域の住民や各地域のPTAとの連携を強化し、行政主導型から学校を含めた地域主導型へと移行させていく。
- ・「地域未来塾」は、末武公民館、中央公民館を会場として継続的に実施しており、昨年度より、久保公民館でも実施している。
- ・「地域未来塾」では、きめ細やかな学習指導に努めている。寄附・予算確保により整備してきたICT機器の効果的な活用が課題である。

事務事業評価シート【No.18】

事務事業	☆子ども会活動支援事業	担当課	生涯学習振興課
------	-------------	-----	---------

1 事務事業の概要

<p>下松市子ども会育成連絡協議会を中心として、校区子ども会、単位子ども会の活動を支援するとともに、親睦球技大会等の交流事業を実施し、子どもたちの健全育成を図る。</p> <p>子ども会活動の意義について啓発を行うとともに、研修会の開催を通して、子ども会育成者及び指導者の養成を図る。</p>
--

2 事務事業のコスト

単位：千円

R3年度 決算額	203	R4年度 決算見込額	392	R5年度 予算額	461
-------------	-----	---------------	-----	-------------	-----

3 事務事業を構成する業務

番 号	業 務 名	番 号	業 務 名
1	子ども会親睦球技大会の開催	4	指導者・育成者研修会の開催
2	星の子フェスタの開催	5	全国子ども会安全会受理業務
3	県子連関係の研修会及び会議	6	優良子ども会表彰

4 事務事業の評価

妥当性	有効性	効率性	関与性	総合評価
C	B	B	B	継続

5 事務事業の今後の課題

<p>・従来子ども会が担っていた、地域の人や他学年の人との交流は、習い事やスポーツ少年団等で行われている。また、親の負担感の増加等の理由により、子ども会加入率が低下し、単位子ども会数も減少しており今後の在り方について検討する必要がある。</p>
--

事務事業評価シート【No.19】

事務事業	青少年の健全育成活動	担当課	生涯学習振興課
------	------------	-----	---------

1 事務事業の概要

下松市青少年育成協議会を中心として、関係機関・組織と連携し、青少年を取り巻く地域環境の把握に努め、環境浄化活動など青少年の健全育成に係る諸施策を実践する。

2 事務事業のコスト

単位：千円

R3年度 決算額	139	R4年度 決算見込額	122	R5年度 予算額	227
-------------	-----	---------------	-----	-------------	-----

3 事務事業を構成する業務

番 号	業 務 名	番 号	業 務 名
1	下松市青少年育成協議会事務局事務	4	下松市青少年問題協議会の開催
2	こども環境クリーンアップ立入調査		
3	県民会議等への出席		

4 事務事業の評価

妥当性	有効性	効率性	関与性	総合評価
B	B	B	B	継続

5 事務事業の今後の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・下松市青少年育成協議会と市内3地区（久保、花岡、中村）の青少年育成協議会との連携強化に努める。 ・市内3地区以外の地区青少年育成協議会の立ち上げを支援する。 ・「家庭の日」の普及に努めるとともに、家族ふれあいの集い事業の充実を図る。 ・こども環境クリーンアップ立入調査について、調査未実施の店舗や新規対象店舗の把握に努め、活動の強化を図る。
--

事務事業評価シート【No.20】

事務事業	青少年育成の啓発・情報提供	担当課	生涯学習振興課
------	---------------	-----	---------

1 事務事業の概要

<p>「地域で子どもを育てよう」をテーマに、ボランティアスタッフ（5名）と連携して情報誌「ねえ」を発行（年間2回）することにより、各家庭及び地域への情報提供を行う。</p>
--

2 事務事業のコスト

単位：千円

R3年度 決算額	337	R4年度 決算見込額	366	R5年度 予算額	384
-------------	-----	---------------	-----	-------------	-----

3 事務事業を構成する業務

番 号	業 務 名	番 号	業 務 名
1	情報誌「ねえ」の作成業務		
2	ボランティアスタッフ会議(年間10回程度)の開催		

4 事務事業の評価

妥当性	有効性	効率性	関与性	総合評価
B	B	B	C	継続

5 事務事業の今後の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアスタッフが固定化され、内容や活動のマンネリ化がみられるため、新規ボランティアスタッフの増強等により、内容や活動の活性化を図る必要がある。 ・R4年度は、“子どもたちのための情報誌”というコンセプトを大切にしながら、市の最新情報や今日的な課題等を踏まえ、「天王森古墳から出土した貴重な埴輪（大刀形・円筒）」、「下松市に住んでいる外国の人たち」を取り上げた。 ・「地域で子どもを育てる」ための地域ニーズと時代に即した情報を提供ができるよう取り組むとともに、より効果的な発信方法についても検討する。

事務事業評価シート【No.21】

事務事業	青少年相談業務	担当課	生涯学習振興課
------	---------	-----	---------

1 事務事業の概要

社会教育指導員（男性：2名、女性：1名 計3名）による電話相談「ヤングテレホンくだまつ」を設け、青少年に関する様々な悩みや相談に対し、適切な助言や情報提供を行う。勉強、進路、学校生活、友達、家庭のこと、いじめ、携帯・スマホ、心・身体、性、子育てなど幅広い領域の相談に対応する。
--

2 事務事業のコスト

単位：千円

R3年度 決算額	62	R4年度 決算見込額	90	R5年度 予算額	85
-------------	----	---------------	----	-------------	----

3 事務事業を構成する業務

番 号	業 務 名	番 号	業 務 名
1	電話相談		
2	庁内青少年相談関係担当者連絡会		
3	ヤングテレホンの周知		

4 事務事業の評価

妥当性	有効性	効率性	関与性	総合評価
B	B	B	B	継続

5 事務事業の今後の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・ 青少年や保護者等の多様化、複雑化する相談内容に応じた適切な助言を行うため、相談員の専門性を高めるとともに、庁内の青少年相談関係担当者相互のより一層の連携と情報交換に努める（相談員同士の日々の情報交換及び「庁内青少年相談関係担当者連絡会」の年間2回の開催を継続）。 ・ ホームページ・市広報・チラシ等で、電話相談「ヤングテレホンくだまつ」について、より一層の周知に努めるとともに、他の相談窓口の情報提供も行う。

事務事業評価シート【No.22】

事務事業	☆公民館施設管理整備事業	担当課	生涯学習振興課
------	--------------	-----	---------

1 事務事業の概要

<p>生涯学習やコミュニティ施設としての機能を併せ持つ公民館施設について、施設の必要な改修や建替えを計画的に行う。</p> <p>また、地域住民による指定管理者制度の導入も含めた管理運営方法の検討を進める。</p> <p>深浦公民館は、令和3年度から令和5年度まで、深浦地域づくり推進協議会が指定管理者として管理運営を行っている。</p>

2 事務事業のコスト

単位：千円

R3年度 決算額	203,661	R4年度 決算見込額	450,024	R5年度 予算額	123,603
-------------	---------	---------------	---------	-------------	---------

3 事務事業を構成する業務

番 号	業 務 名	番 号	業 務 名
1	施設管理業務	4	指定管理者制度に係る業務
2	貸館業務		
3	施設整備業務		

4 事務事業の評価

妥当性	有効性	効率性	関与性	総合評価
A	B	B	B	継続

5 事務事業の今後の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・花岡公民館は講堂の建替えが完了した。 ・米川公民館については市民交流拠点施設の一部として整備される事が決定した。 ・末武公民館の建替えについては、米川公民館と同様に複合化等を検討する必要がある。 ・深浦公民館は令和6年度からの指定管理に向けて、公募方法を検討する必要がある。 ・令和2年度に策定した長寿命化計画（個別施設計画）に基づき、施設の維持管理、更新を進める。 ・指定管理者制度を活用した地域による公民館の管理運営について、導入の検討を進めるとともに、導入した公民館の円滑な運営に努める。 ・公民館使用料に係る免除団体登録制度の適正な運用に努める。
--

事務事業評価シート【No.23】

事務事業	生涯学習活動の推進・支援事業	担当課	生涯学習振興課
------	----------------	-----	---------

1 事務事業の概要

公民館講座をはじめとした各種講座の開催や市民や市職員を講師とした出前講座を実施し、市民の生涯学習機会の充実を図る。また、公民館、図書館などの講座情報をまとめた「とくとく情報」の発行や「くだまつ親子の日フェスタ」の開催により、学習機会の提供と動機付けを行う。

高等教育機関との連携事業として、放送大学との共催による大人を対象とした「星ふるまちのくだまつアカデミー」、山口県立大学との共催による子どもを対象とした「サテライトカレッジ」を開催し、多様な学習ニーズに対応する。

「星のまちカレッジ after 5 in くだまつ」では、市内在住、在勤の方を対象に会員を募集し、公開講座を含めた年9回の講座を実施する。共に考え、共に学ぶを実践し、企画委員が各講座の企画・立案を行い、一般会員が、企画委員と共に各講座の運営を行う。

2 事務事業のコスト

単位：千円

R3年度 決算額	119	R4年度 決算見込額	395	R5年度 予算額	731
-------------	-----	---------------	-----	-------------	-----

3 事務事業を構成する業務

番 号	業 務 名	番 号	業 務 名
1	公民館講座の開催	4	くだまつアカデミー・サテライトカレッジの開催
2	出前講座の実施	5	星のまちカレッジ after 5 in くだまつの企画・運営
3	生涯学習に関する情報発信		

4 事務事業の評価

妥当性	有効性	効率性	関与性	総合評価
B	B	B	C	継続

5 事務事業の今後の課題

- ・出前講座について、多様な市民ニーズに対応できるよう、新規市民講師の発掘に努めるとともに、講座内容の充実を図る。
- ・インターネットを活用した生涯学習情報の発信強化に努める。
- ・「星のまちカレッジ after 5 in くだまつ」においては、多様な年齢層や新規の参加者に受講してもらえるよう、開催方法など工夫が必要である。

事務事業評価シート【No.24】

事務事業	生涯学習による人づくり・地域づくり事業	担当課	生涯学習振興課
------	---------------------	-----	---------

1 事務事業の概要

笑顔が笑顔を呼ぶまちづくりを目指し、あいさつ運動の推進及び笑顔の写真コンテストを実施する。
 なお、星のふるまち童謡フェスタは、令和3年度の20回目の節目をもって事業を終了した。
 親と子の関係を見つめ直す機会として、平成26年度から7月第4日曜日を「くだまつ親子の日」として、幅広い世代を対象に普及啓発を行う。

2 事務事業のコスト

単位：千円

R3年度 決算額	1,349	R4年度 決算見込額	344	R5年度 予算額	867
-------------	-------	---------------	-----	-------------	-----

3 事務事業を構成する業務

番 号	業 務 名	番 号	業 務 名
1	あいさつ運動の推進	4	「くだまつ親子の日」推進事業の展開
2	童謡フェスタの開催	5	くだまつ親子の日フェスタの開催
3	笑顔の写真コンテストの開催		

4 事務事業の評価

妥当性	有効性	効率性	関与性	総合評価
B	B	B	B	縮小

5 事務事業の今後の課題

- ・あいさつ運動については、引き続き学校教育課の「心豊かな子どもを育てる推進事業」と連携し、小中学校と公民館の連携強化及び運動の推進を図る。
- ・笑顔の写真コンテストについては、応募作品の増加に伴い、展示方法・場所を検討するとともに、一層の推進を図るため、表彰式の開催方法等の見直しを行う。
- ・親子の日フェスタの開催やくだまつ親子の日普及推進プロジェクト事業を通じて、「くだまつ親子の日」の一層の振興を図る。

事務事業評価シート【No.25】

事務事業	☆二十歳のつどい	担当課	生涯学習振興課
------	----------	-----	---------

1 事務事業の概要

<p>民法の改正に伴い、式典の名称を「成人式」から「二十歳のつどい」に改めた。二十歳を迎える市民を祝い社会的責任及び周囲への感謝を再認識し、ふるさとくだまつへの愛着を深めることを目的としている。</p> <p>企画及び運営は、二十歳を中心とした二十歳のつどい実行委員会が行う。</p> <p>実行委員会は、8月頃から月1回程度、企画・立案し、二十歳の門出を祝うため事業を運営する。当日は、式典とアトラクションの2部構成とし、第1部の記念式典は、市長による式辞、来賓による祝辞、代表による「二十歳のメッセージ」を伝えるなど、厳粛な中で行われる。第2部は、実行委員会が運営を担当する。</p>
--

2 事務事業のコスト

単位：千円

R3年度 決算額	1,489	R4年度 決算見込額	1,392	R5年度 予算額	1,122
-------------	-------	---------------	-------	-------------	-------

3 事務事業を構成する業務

番 号	業 務 名	番 号	業 務 名
1	下松市二十歳のつどいの举行		
2	二十歳のつどい実行委員会の開催 (企画運営について月1回程度)		

4 事務事業の評価

妥当性	有効性	効率性	関与性	総合評価
A	A	B	B	継続

5 事務事業の今後の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・事務局の定めた枠組みにはまりがちである。令和5年度二十歳のつどいでは、実行委員の意見によりフォトスポットを設置した。今後も実行委員会の意見を引き出すことが重要である。
--

事務事業評価シート【No.26】

事務事業	下松市民憲章推進によるまちづくり	担当課	生涯学習振興課
------	------------------	-----	---------

1 事務事業の概要

一人ひとりが自分たちのまちを支え、明るく住みよい、そして潤いのあるまちづくりと心豊かなひとづくりを推進するとともに、安全安心住みよき日本一のまちを目指し、市民憲章が市民生活の中に融和するよう、適切な実践方法を策定・実行する。また、実践5項目について積極的に活動・実践している個人又は団体を表彰規程に基づき、市民憲章実践者として表彰を行っている。

2 事務事業のコスト

単位：千円

R3年度 決算額	209	R4年度 決算見込額	209	R5年度 予算額	209
-------------	-----	---------------	-----	-------------	-----

3 事務事業を構成する業務

番 号	業 務 名	番 号	業 務 名
1	市民憲章推進協議会事務局		
2	市民憲章推進協議会補助金交付		
3	市民憲章実践者表彰		

4 事務事業の評価

妥当性	有効性	効率性	関与性	総合評価
B	B	B	B	継続

5 事務事業の今後の課題

- ・市民憲章の精神（こころ）を市民生活の中に根付かせるため、地道に裾野を広げていく。
- ・市民憲章推進協議会の加入団体数の増加に努めるとともに、引き続きサポーター会員の確保と賛助金を活用した事業に取り組む。

事務事業評価シート【No.27】

事務事業	下松市連合婦人会活動支援	担当課	生涯学習振興課
------	--------------	-----	---------

1 事務事業の概要

<p>市内4地区393人の婦人会員から成る連合婦人会で、4地区の連結協調を図る。 多くの婦人会行事を運営する中で、お互いが積極的にまちづくりに参加できるよう支援する。 連合婦人会事務局で、主に会議・総会・研修会・グラウンドゴルフ大会などの行事への出席・資料作成及び連絡調整を行う。</p>
--

2 事務事業のコスト

単位：千円

R3年度 決算額	77	R4年度 決算見込額	77	R5年度 予算額	77
-------------	----	---------------	----	-------------	----

3 事務事業を構成する業務

番 号	業 務 名	番 号	業 務 名
1	会の運営に関する業務	4	県連合婦人会に関する業務
2	行事・研修開催に伴う業務		
3	地域等で行われる各種行事への協力		

4 事務事業の評価

妥当性	有効性	効率性	関与性	総合評価
B	B	B	B	継続

5 事務事業の今後の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・会員の高齢化と若年層会員の減少や運営資金の確保が緊切した課題となっている。
--

事務事業評価シート【No.28】

事務事業	芸術文化の振興	担当課	生涯学習振興課
------	---------	-----	---------

1 事務事業の概要

<p>市民の芸術文化活動を促進し、芸術文化への関心を高めるため、芸術・文化の振興に功績があった者（団体）を表彰する。</p> <p>文化部門での全国大会出場者（団体）に対する激励金の交付や文化協会共催による市民文化祭、市内で開催される県総合芸術文化祭への補助を行う。</p> <p>文化協会及び地方史研究会の事務局を運営する。</p> <p>市民美術展覧会を開催することにより、芸術創作活動を促進するとともに、芸術作品の鑑賞の場を提供し、市民の芸術文化の普及向上を図る。</p>

2 事務事業のコスト

単位：千円

R3年度 決算額	1, 894	R4年度 決算見込額	2, 007	R5年度 予算額	2, 450
-------------	--------	---------------	--------	-------------	--------

3 事務事業を構成する業務

番 号	業 務 名	番 号	業 務 名
1	表彰の選考・推薦及び表彰式の開催	4	文化協会・地方史研究会事務局補助
2	文化部門全国大会派遣費補助	5	市民美術展覧会の企画・運営
3	市民文化祭・山口県総合芸術文化祭補助		

4 事務事業の評価

妥当性	有効性	効率性	関与性	総合評価
B	B	B	B	継続

5 事務事業の今後の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・文化部門全国大会出場激励金について、交付する対象者・団体の把握に努める。 ・優秀な成績を収めた個人・団体や市内で開催される文化行事の積極的な情報発信を行っていく。 ・文化協会、地方史研究会などの団体活動における行政の関わり方を整理し、自立した運営ができるよう支援する。 ・市内の芸術文化活動の裾野を広げるため、市民美術展覧会の共催イベントとして市内高等学校作品展を開催する等、若い世代からも数多く出品してもらえるよう、引き続き取り組んでいく。

事務事業評価シート【No.29】

事務事業	☆吹奏楽の活動支援	担当課	生涯学習振興課
------	-----------	-----	---------

1 事務事業の概要

下松吹奏楽協会事務局を運営して、協会加盟団体10団体による演奏会「下松吹奏楽のつどい」の開催に伴う企画運営事務を行うほか、定期クリニック（技術講習会）を開催し、「吹奏楽によるまちづくり」を推進する。

2 事務事業のコスト

単位：千円

R3年度 決算額	745	R4年度 決算見込額	745	R5年度 予算額	745
-------------	-----	---------------	-----	-------------	-----

3 事務事業を構成する業務

番 号	業 務 名	番 号	業 務 名
1	定期クリニックの開催		
2	吹奏楽のつどいの開催		
3	吹奏楽協会事務局		

4 事務事業の評価

妥当性	有効性	効率性	関与性	総合評価
B	B	B	C	継続

5 事務事業の今後の課題

- ・会員の増加や「吹奏楽のつどい」プログラムに掲載する協賛広告の募集拡大等により、活動・運営資金の確保に努める。
- ・協会設立30周年記念事業を行う。

事務事業評価シート【No.30】

事務事業	☆文化会館管理運営事業	担当課	生涯学習振興課
------	-------------	-----	---------

1 事務事業の概要

<p>下松市文化会館の施設及び設備の維持管理に関する業務を行う。令和元年度から令和5年度まで、公益財団法人下松市文化振興財団が指定管理者として管理運営を行っている。</p> <p>主要機器類の年次更新や施設の維持補修に加え、令和2年度に策定した長寿命化計画（個別施設計画）に基づき、改修工事を実施することで施設の長寿命化を図る。</p>
--

2 事務事業のコスト

単位：千円

R3年度 決算額	138,805	R4年度 決算見込額	148,819	R5年度 予算額	164,200
-------------	---------	---------------	---------	-------------	---------

3 事務事業を構成する業務

番 号	業 務 名	番 号	業 務 名
1	施設及び設備改修工事に関する業務		
2	管理運営業務		
3	指定管理者制度に係る業務		

4 事務事業の評価

妥当性	有効性	効率性	関与性	総合評価
A	B	B	B	継続

5 事務事業の今後の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・平成29・30年に開館以来初めてとなる大規模改修を実施したが、令和2年度に策定した長寿命化計画（個別施設計画）に基づき、施設の維持管理、更新を進める。 ・令和6年度からの指定管理に向けて、仕様の精査及び公募方法を検討する必要がある。
--

事務事業評価シート【No.31】

事務事業	☆歴史・伝統の保護・活用事業	担当課	生涯学習振興課
------	----------------	-----	---------

1 事務事業の概要

文化財愛護意識の高揚を図り、指定文化財を適切に保存・管理し、貴重な文化財を保護する。
 埋蔵文化財を保護するため、包蔵地内における開発等について、県への届出等に係る事務を行うほか、指示により工事立会を実施し、結果を報告する。
 国指定文化財「関伽井坊多宝塔」の防災設備管理事業に対する補助金や国指定天然記念物「八代のツル」（下松市は米川大藤谷が渡来地）のねぐら整備に対する負担金を交付する。
 県指定無形民俗文化財「切山歌舞伎」の保存会に対して補助金を交付する。
 郷土資料展示収蔵施設「島の学び舎」における郷土の歴史・民俗・文化財等に関する資料の保存と活用を図るほか、歴史民俗資料展示コーナー「くだまつふるさと広場」において企画展示を行う。
 市の発展に影響を与える様々な出来事のあった平成時代についての記録や記憶を収集し、次期の本格的市史を編さんする際に活用できる「下松市平成の記録（仮）」の発行を行う。

2 事務事業のコスト

単位：千円

R3年度 決算額	13,523	R4年度 決算見込額	9,998	R5年度 予算額	11,561
-------------	--------	---------------	-------	-------------	--------

3 事務事業を構成する業務

番 号	業 務 名	番 号	業 務 名
1	文化財審議会、文化財防火デー業務	5	切山歌舞伎保存会への補助金交付
2	埋蔵文化財保護経由事務	6	歴史民俗資料展示コーナーの企画運営
3	郷土資料展示収蔵施設の管理・運営	7	市史編さん準備事業
4	関伽井坊多宝塔・八代のツルへの補助		

4 事務事業の評価

妥当性	有効性	効率性	関与性	総合評価
B	B	B	A	拡充

5 事務事業の今後の課題

- ・工事立会等の埋蔵文化財業務について現在は県の技術支援を得て行っているが、埋蔵文化財の保存と活用を適切に行うためには、専門知識をもった職員の確保が必要である。
- ・郷土資料展示収蔵施設「島の学び舎」における郷土資料の適切な管理・保存を行うとともに、魅力ある展示や企画展の実施等により来館者の増加に努める。
- ・「切山歌舞伎」を郷土芸能として保存・伝承していくために、その活動を支援していく。
- ・「下松市平成の記録（仮）」の令和6年度発行のため、執筆・編集等の業務を市史編さん準備委員会や平成の記録編集部会を中心として計画的に進めていく。

事務事業評価シート【No.32】

事務事業	人権教育	担当課	生涯学習振興課
------	------	-----	---------

1 事務事業の概要

下松市人権教育推進委員会議での指導と助言を得ながら、人権教育の推進に努める。具体的には、市民の人権意識の高揚を図るため、「人権教育研修の日講座」「人権教育推進者研修講座」を開講し、学習機会の充実、推進者の養成に努める。また、基本的人権を尊重し合う明るく住みよいまちをつくるため、「下松市『人権』を考えるつどい」を開催する。

学校、幼稚園、保育園、公民館、企業、事業所、社会教育関係団体等と連携し、人権に関する情報提供や学習機会の増加及び充実に努める。また、視聴覚教材の整備やリーフレット等を作成し、本事業の講座や各種団体・職場等の研修の資料として役立てる。

2 事務事業のコスト

単位：千円

R3年度 決算額	1, 342	R4年度 決算見込額	1, 565	R5年度 予算額	1, 948
-------------	--------	---------------	--------	-------------	--------

3 事務事業を構成する業務

番 号	業 務 名	番 号	業 務 名
1	人権教育推進委員会議の開催	4	人権教育活動事業交付金に関する業務
2	「人権」を考えるつどいに関する業務	5	啓発用DVDの貸出業務
3	人権教育啓発講座、研修に関する業務		

4 事務事業の評価

妥当性	有効性	効率性	関与性	総合評価
A	B	B	B	継続

5 事務事業の今後の課題

- ・人権教育の推進者養成（研修）に努める。
- ・参加者のニーズに合った講座、講演会の講師選択や、視聴覚教材の選定に努める。
- ・広く市民（特に企業や事業所）に対して、人権意識の高揚を図るとともに、「『人権』を考えるつどい」の参加者の確保に努める。
- ・啓発用DVDの貸出、活用に努める。

事務事業評価シート【No.33】

事務事業	子どもの読書活動の促進	担当課	図書館
------	-------------	-----	-----

1 事務事業の概要

新型コロナウイルスの感染状況がだいぶ落ち着き、2年間、中止やオンライン開催となっていた子ども対象行事を、対面で実施することができるようになった。
星ふるまの図書館教育も、コロナ禍前のように、全小学校を訪問して実施することができた。

2 事務事業のコスト

単位：千円

R3年度 決算額	883	R4年度 決算見込額	520	R5年度 予算額	520
-------------	-----	---------------	-----	-------------	-----

3 事務事業を構成する業務

番 号	業 務 名	番 号	業 務 名
1	星ふるまの図書館教育	4	子ども対象各種行事（おはなし会・科学のおはなし会・一日子ども図書館員等）
2	小中学校連携事業（団体貸出・職場体験等）	5	企画展示・ブックリスト作成
3	親子読書推進事業（絵本のある暮らし応援パック）	6	おはなしボランティア養成

4 事務事業の評価

妥当性	有効性	効率性	関与性	総合評価
A	A	A	B	継続

5 事務事業の今後の課題

令和5年度から、小中学校および ICT 教育推進室と連携し、タブレットを活用した子ども達の学びを支援する2事業に取り組む。

①電子図書館の学校連携事業
児童生徒および教職員全員に下松市電子図書館の ID・パスワードを配付し、学校や家庭で電子図書館を利用して、気軽に読書や調べ物ができる環境整備を行う。

②ふるさと学習支援事業
郷土資料デジタルアーカイブやこれまでに作成したリーフレット等を活用して、小中学校への出前講座を実施し、子ども達に下松の歴史を伝える。

事務事業評価シート【No.34】

事務事業	図書館の充実	担当課	図書館
------	--------	-----	-----

1 事務事業の概要

<p>図書館システムの更新を行い、令和4年7月1日から新システムの運用を開始した。</p> <p>令和4年度は、図書館開設70周年および現図書館開館10周年の節目の年であり、記念事業として「図書館振興県民のつどい」を引き受け、イベント「影絵で楽しむ下松の民話」、パネル展示「下松市立図書館の歩み」、講演会「矢嶋旧邸を水彩画に残した画家・小林重三」を開催した。</p> <p>（公財）図書館振興財団の助成金を活用して、郷土資料デジタルアーカイブの掲載資料の追加やトップページのリニューアルを行った。また、天王森古墳出土の形象埴輪の一般公開に合わせて、大刀形埴輪1体、惣ヶ迫古墳出土の朝顔形埴輪2体の3D画像を作成し、デジタルアーカイブに公開した。</p>
--

2 事務事業のコスト

単位：千円

R3年度 決算額	80,431	R4年度 決算見込額	78,289	R5年度 予算額	75,204
-------------	--------	---------------	--------	-------------	--------

3 事務事業を構成する業務

番 号	業 務 名	番 号	業 務 名
1	図書館管理運営	4	図書館行事・企画展示
2	資料収集・提供・保存	5	郷土資料デジタル化業務
3	レファレンス（資料相談）業務	6	電子図書館管理運営

4 事務事業の評価

妥当性	有効性	効率性	関与性	総合評価
A	A	A	B	継続

5 事務事業の今後の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・これから数年間で天王森古墳出土の形象埴輪の復元が進んでいくので、生涯学習振興課文化財室と連携しながら、復元埴輪のデジタル画像を郷土資料デジタルアーカイブで公開していく。 ・電子図書館の利用拡大に向けて、様々な機会を利用して、チラシ配布や活用講座を実施していく。
--

事務事業評価シート【No.35】

事務事業	移動図書館の充実	担当課	図書館
------	----------	-----	-----

1 事務事業の概要

<p>市周辺部や、交通手段を持たない子どもやお年寄りを対象に幼・保育園、小学校、児童の家、高齢者施設等を巡回し、利用者の要望を聞き取って本を届ける等、きめ細かい図書館サービスを実施している。</p> <p>小学校の巡回時間（昼休み）を利用して、絵本の読み聞かせを行った。</p>

2 事務事業のコスト

単位：千円

R3年度 決算額	3,901	R4年度 決算見込額	3,905	R5年度 予算額	4,298
-------------	-------	---------------	-------	-------------	-------

3 事務事業を構成する業務

番 号	業 務 名	番 号	業 務 名
1	移動図書館管理運営	4	小学校・幼稚園・保育園との連携
2	移動図書館の安全運行	5	高齢者施設との連携
3	移動図書館の利用促進	6	地域住民との連携

4 事務事業の評価

妥当性	有効性	効率性	関与性	総合評価
A	A	A	B	継続

5 事務事業の今後の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・利用実態や地域の実情、巡回希望等を考慮し、巡回ステーションの見直しをする。 ・図書館サービスが市内全域に行き届くように、住民の暮らしに寄り添った運行に努めていく。
